

西深井 不動堂 不動明王を祀った御堂

- ・明治6年2月1日 深井小学校開校。同年11月まで授業を行うも手狭になり同年12月に西深井浄観寺に移動。教室の広さ/5坪、先生/岡田伝左衛門、生徒数/不明も教室の広さから15人前後と推定。入学年齢は満6歳に達した者とされたが、実際には7歳や8歳での入学者もいた。

西深井 浄観寺 創建1624年、真言宗、本尊・薬師如来。十一面観音午年御開帳（観音堂）

- ・明治6年12月1日から明治20年3月まで深井小学校が置かれた。教室の広さ/20坪 明治16年10月増設で/26・5坪。
- ・明治8年4月の生徒数/男子46名・女子2名（3学年合計）。1学年の平均16人、ただし2学年、3学年と進むにつれ退学者が出たと推定される。同9年4月の生徒数/男子36名・女子2名。女子が少ないのは当時の女子教育への関心度の低さと、6歳ぐらいになると自宅での子守や家事手伝い、他家へ奉公に出るものが多かった。男子においてもけして多いとは言えない。男子の場合は農家の働き手として重要な労働力であったので、親側も積極的に就学させることはなかった。また、経済的な問題もあった。当時の学費（月謝）は学校により異なるが、大体30～50銭であった。今の金額にすると7千円以上になる。これでは当時の農家ではかなりの負担であった。それ故、入学しても1年や2年で退学する者が多かった。
- ・明治14年4月の生徒数/男子51名・女子12名。
- ・明治20年4月1日 平方福性寺に移動して平方尋常小学校となる。ただし平方尋常小学校の分教場として一部生徒の授業を継続した。また、明治22年、平方尋常小学校と南尋常小学校が合併して新川尋常小学校が設立されたが、校舎がなかったので福性寺、浄観寺は分教場として授業を継続した。
- ・明治28年4月 新川尋常小学校の解散に伴い西深井尋常小学校を開校。
- ・明治35年 再び新川尋常小学校の設立に伴い西深井尋常小学校は消滅するも、新川尋常小の校舎がないので分教場として授業を継続。
- ・明治37年7月 新川尋常小学校の新校舎完成に伴い浄観寺は学校としての使命を終わる。以上のことから明治6年12月から明治37年7月まで約31年間、呼び名は変わったが学校教育の場であった。

・西深井 長堀あきさんの談話（92歳の時）

私は明治32年の春、浄観寺の西深井小学校に数えの9歳のとき入学した。それから4年間、本堂で勉強した。1年目は月謝を納めたが2年目から無料になり義務教育になったが、今のように誰でも学校に行くことはなく、とくに女子の友達はあまりいませんでした。南小学校とは交流がありました。

平方 福性寺 創建不詳、真言宗、本尊・大日如来。

- ・明治20年4月 尋常小学校制に伴い平方尋常小学校開校（4年制）。教室の広さ/7・5坪
- ・明治22年4月 新川村の誕生に伴い新川尋常小学校が設立されて同校は消滅。ただし新川尋常小学校の校舎はなかったので、分教場として従来のまま授業を継続。
- ・明治28年4月 新川尋常小学校解散に伴い西深井尋常小学校が浄観寺に開校。分教場になったかどうかは不明。

- ・ぼけ封じの寺 関東三十三観音第8番札所（市内唯一）
- ・流山七福神の寺（毘沙門天）
- ・聖徳太子講の碑（新川村職工組合） 聖徳太子は建築業者の守り神

3学級・3学年男15人、女16人 4学年男22人、女10人

4学級 なし

男180女234 計414

上記から明治35年度は女子の1年生が多い。男女出生の違いか。女子の入学年齢が遅れた(7歳、8歳で入学)ことや留年が多かった可能性もある。また、学年が進むと男子女子ともに就学者が半減、半減と減少しているのがわかる。すでに4年間の義務教育、学費無料が実施されていたが児童が労働力であった農村地帯の事情が垣間見られる。寺の本堂の限られたスペースでどのような教室割がされたか不明。1分教場30坪前後のスペースを考えれば資料に疑問も残る。なお、新川小学校沿革史によれば明治35年度の入学者数は75人で、前記の1年生合計191人と大きな違いがある。

・明治36年4月 生徒数/男子171人・女子217人、合計388名

新川小沿革史によると同年度の入学者は男子24、女子25人、計49人とある。前3年と合わせると4学年の合計は246人となり388人との違いがある。142人の差はなにか。

・明治37年7月24日 新校舎が完成。校舎の広さ/214坪、運動場/1590坪 9学級

新川小沿革史によれば同年度の入学者数は63人、高等科入学28人とある。

・同11月 新川尋常高等小学校となる(2年制の高等科)

・明治38年3月 高等科を4年制に変更

・明治41年4月 義務教育を4年から6年に変更(高等科2年)

・明治43年4月 校舎増築完成 校舎の広さ/301坪、運動場/1243坪

・明治44年4月 生徒数/男子262人・女子239人 計501人、11学級

新川小沿革史には同年の入学者72人、高等科入学31人とある。6年間の入学者合計は451人、高等科年2年間の合計入学者は51人、計502人で、この年代になると義務教育の6年間はほぼ就学が守られていた。義務教育でない高等科進学は半数以下であった。

・荒井元久さんの談話(81歳の時)

明治42年4月、数え8歳で新川尋常小学校に入学した。その頃は家の手伝いをしながら学校に行くのが普通でしたから、毎朝、家業のお煎餅を学校の近くの店に届けながら通った。女子では小さい子をおぶって通う子もいました。クラスは男女別でした。

男女7歳にして席を同じうせず

明治12年、「学校においては男女別学、ただし小学1、2年はこの限りでない」

明治24年、「小学校の学級編成で女子の人数が十分であれば男女別学、ただし1、2年生は例外」

寺の本堂では男女別学は、かなり困難であったのではないかと(明治35年の学級編成参照)。

附

学区

・明治10年

深井小学校（西深井、東深井、深井新田、平方、平方村新田、平方原新田）

南小学校（中野久木、北、小屋、南、上新宿、桐ヶ谷、上貝塚、下花輪、谷、上新宿新田）

・明治17年

深井小学校 28番小区（西深井、東深井、深井新田、平方、平方村新田、平方原新田、中野久木）

南小学校 27番小区（三輪野山、桐ヶ谷、南、北、小屋、大畔、初石新田、大畔新田、上貝塚、谷、上新宿、上新宿新田、下花輪、駒木、駒木新田、十太夫新田、青田新田） 下線は私立鑄木学校（駒木新田）の学区でもあった。

・明治22年 新川村

学年

・明治13年（初等科3年、中等科3年、高等科2年の8年制）

当時、南小学校の先生であった鈴木吉兵衛家に残されていた関係資料によると、小学校は上等4年、下等4年の8年制であった。これは千葉県における二分方式であったと思われる。ただし、南小学校での実態は3年制で深井小学校も同様であったと思われる。中には3年終了後、流山尋常高等小学校に通う者もいたという。

・明治20年4月 尋常小学校 4年制（義務教育） 明治23年まで3年制を認める。

尋常高等小学校（4年制）

・明治40年4月 尋常小学校 6年制（義務教育）

尋常高等小学校 2年制

義務教育が6年に延びたことで高等小学校に入学する者が減少した。それまでも高等小学校に入学するも2年ぐらいで退学していたという。

学費 明治7年 8, 9, 10年の資料なし

南小・19銭 加村小・55銭 流山小・1円10銭 西平井小・43銭 木村小・1円11銭

野々下小・27銭 前ヶ崎小・35銭 深井小・資料なし

流山小、南小、野々下小はM8, 9年無料

先生給料

明治7年 7校とも4円53銭 深井小・資料なし 流山小先生（3）

明治8年 不明

明治9年—10年（ ）内先生数

深井小・10円（1）—9円（1） 南小・14円（2）—14円（2） 加村小・9円（1）—7円（1）

流山小・9円（2）—13円（3） 西平井小・9円（1）—6円（1） 木村小・6円（1）—4円（1）

野々下小・7円（1）—4円（1） 前ヶ崎小・7円（1）—4円（1）

*以上ノ数字は未確認につき参考まで。